

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立瓜破北小学校

令和8年2月

大阪市立瓜破北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

(1) 安全・安心な教育の推進について

小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」について、最も肯定的な「思う」と回答した児童は88.5%であり、85%以上にするという目標を達成した。毎年ポイントが上がっている。これからも重点目標としての取り組みを継続していく。

全市共通目標の令和6年度末の校内調査における「不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる」は、全教職員で不登校児童の状況の共有を図り、組織的に対応したが、1.28%という結果であった。(前年度1.69%)少し解消できたが、引き続き、保護者との連携を密にして、組織的な対応をさらに続けていく。

学校の年度目標については、「自分にはよいところがあると思いますか」85%、「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」98%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」96%、「学校へ行くのが楽しい」89%になった。令和6年度末はすべての項目において「昨年度より増加させる」という目標を達成することができた。引き続き他者を思いやる心や自尊感情を高めるために、道徳心・社会性の育成に努める。

(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上について

学力の向上では、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答した児童は34.8%であり、33%以上にするという目標は達成できた。また、小学校学力経年調査における「国語および算数の平均正答率の全国比を同一母集団において、いずれの学年も前年度より0.1ポイント増加させる」という目標は、すべて目標が達成できなかった。(4年国語0.08ポイント算数-0.04ポイント、5年国語と算数0.06ポイント、6年国語-0.05ポイント算数-0.03ポイント)しかし、同一母集団における標準化得点は4年算数以外はすべて向上していた。今後も教員の授業研究や習熟度別少人数学習等、学習形態の工夫に取り組み、継続して研究・研修に努めていく。小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する割合を84%にするという目標は、83%と下回ったが、3年生では87.2%で上回った。

健康や体力の保持増進については、体力・運動能力調査では、体力合計点は、男子は大阪市平均を2.84点上回ったが、女子は大阪市平均を4.42点下回った。各学年で「がんばりカード」を工夫して活用した取り組みを行っていたが、今年度はさらに工夫をして各種目の成績の向上を図るとともに、引き続き運動に親しむ態度を養っていく。

また、小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」について、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、平均で71.7%となり、68%以上にするという目標を達成することができた。令和6年度末保護者アンケートの「学校で学習したことを理解している」について、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える割合は89%となり、同値であった。児童アンケートの「学校の勉強はわかりやすい」については、「そう思う・どちらかといえばそう思う」は91%となり、同値であった。また、「手洗い、うがい、歯みがきをしっかりと健康に気をつけている」については、肯定的に答える児童の割合は95%で、2ポイント減少した。学校での取り組みとともに家庭への啓発を継続していく。

(3) 学びを支える教育環境の充実について

全市共通目標「授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。」については、達成することができなかった。「年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を87%以上にする。」については2月の時点で目標を達成することができなかった。学校の年度目標では、令和6年度末保護者アンケート「学校は学習者用端末を活用した学習を行っている。」では、肯定的な回答の割合が87%で前年度の85%を上回り目標が達成できた。児童アンケート「学習者用端末を使った学習が楽しい。」では、肯定的な回答の割合が94%で前年の92%より上回り目標を達成した。今後もさらに取り組みを継続していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和7年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より増加させる。
 - ② 令和7年度の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和3年度より減少させる。
 - ③ 令和7年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を令和3年度より減少させる。
- 令和7年度の児童アンケート調査で、次の各項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を令和3年度より3ポイント以上、増加させる。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」
 - ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」
 - ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」
 - ・「学校へ行くのが楽しい」

【未来を切り拓くため学力・体力の向上】

- ① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より3ポイント以上、増加させる。
 - ② 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より3ポイント以上、増加させる。
 - ③ 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合をいずれの学年も令和3年度より3ポイント以上、増加させる。
 - ④ 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合をいずれの学年も令和3年度より3ポイント以上、増加させる。
 - ⑤ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合をいずれの学年も令和3年度より3ポイント以上、増加させる。
- 令和7年度末保護者アンケートにおける「学校で学習したことを理解している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を令和3年度より3ポイント以上、増加させる。
- 令和7年度末児童アンケートにおける「学校の勉強は、わかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を令和3年度より3ポイント以上、増加させる。
- 令和7年度末児童アンケートにおける「手洗い、うがい、歯みがきをしっかりと、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を、令和3年度より3ポイント以上、増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 令和7年度の学習者用端末を活用した学習を週5回実施する割合を令和3年度より向上させる。
- ② 令和7年度の年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を令和3年度より向上させる。

- 令和7年度末保護者アンケートにおける「学校は学習者用端末を活用した学習を行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を75%以上にする。
- 令和7年度末児童アンケートにおける「学習者用端末を使った学習が楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- ④ 令和7年度末の児童アンケート調査で、次の各項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合において現状維持をめざす。
 - ・「自分にはよいところがあると思いますか」
 - ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」
 - ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」
 - ・「学校へ行くのが楽しい」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を34%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ④ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。
- ⑤ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

学校の年度目標

- ⑥ 令和7年度末保護者アンケートにおける「学校で学習したことを理解している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を88%以上にする。
- ⑦ 令和7年度末児童アンケートにおける「学校の勉強は、わかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ⑧ 令和7年度末児童アンケートにおける「手洗い、うがい、歯みがきをしっかりと、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を、95%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を1月末までに70%以上にする。

学校の年度目標

- ③ 令和7年度末保護者アンケートにおける「学校は学習者用端末を活用した学習を行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を、85%以上にする。
- ④ 令和7年度末児童アンケートにおける「学習者用端末を使った学習が楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

本年度の自己評価の総括

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標について

・いじめは絶対にしてはいけないという指導を継続してきた。今年度も「いじめ（いのち）について考える日」では、学校長からの講話に加え、各担任から「いじめはどんな理由があってもいけない」という話を発達段階に合わせて指導した。いじめアンケートは学期ごとに実施し、児童の状況を把握するとともに聞き取りや対応を行い、認知した事象は組織的に対応してきた。日常でも、児童の様子をよく観察し、トラブル時には児童それぞれの思いを丁寧に聴いて対応し、職員会議や夕会等にて全教職員で情報を共有してきた。家庭との連携は常に密にとり、支援や指導を重ね、情報モラル教育オンライン授業なども行った。大阪市学力経年調査のいじめに対する質問紙項目では、最も肯定的に回答する児童の割合が目標より低かったが、肯定的な回答は93%で目標値より6%上回っている。最も肯定的であるという回答をためらう本校児童の意識改革が必要である。

・不登校児童の在籍比率や、不登校児童の改善の割合についてはいずれも目標を達成することができた。

・中期目標において「いじめ」の項目に対して、令和3年度より4.1ポイント減少し、不登校児童の在籍比率においても0.2ポイント増加したため、目標を達成することができなかった。前年度不登校児童の改善の割合は途中で増減はあったものの減少させることはできなかった。

学校の年度目標について

- ・令和7年度末の児童アンケートの肯定的回答の割合は、次の通りである。
「自分にはよいところがあると思いますか」85%で、前年度より3%減少。
「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」95%で、前年度より3%減少。
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」95%で、前年度より1%減少。
「学校へ行くのが楽しい」84%で、前年度より5%減少。

4つの質問項目すべてが前年度に比べて減少したという結果になった。今年度も各学年に応じた体験学習を年間1回以上行い、多様な体験学習を通して、互いに助け合い協力し合うことの大切さを学ぶことができた。平和学習においても、平和の大切さについて考え、他者を思いやる心を深めることができた。今年度は目標達成には至らなかったが、今後もさらに自己肯定感を高め、自分や他者を大切にすることを育むことができるよう、日々の支援や指導を丁寧に行っていくようにする。

・中期目標の結果において令和3年度より3ポイント以上増加させるという目標は、4つの項目のうち、上の2項目は達成することができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標について

・本校の課題である学力の二極化についての課題解決を図るため、今年度は算数科を研究教科とし、基礎基本の定着や個に応じた指導を充実させて、知識や技能を高める学力向上への取り組みを行ってきた。令和4年度より継続して大阪市総合教育センター学びチーフコラボレーターの指導助言のもと、3年生を対象に放課後学習会を実施している。また、振り返りプリントやデジタル教材 navima などを用いて子どもが自分のペースで学ぶ取り組みを行ったり、朝学習で100マス計算や視写、読書などを実施したりして基礎・基本の定着を図った。また、教材・教具の工夫や教室掲示の仕掛けなど、子どもたちが興味をもって学習に取り組めるようにしたり、協働的な学習を取り入れ、他者との話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広めたりする授業改善に努めてきた。また、大阪市総合教育センターのスクールアドバイザーに指導していただき、すべての教員が授業研究や公開授業及び討議会に参加し、校内研修を充実させた。運動能力向上のために、スポーツテストを全学年で実施することで、自身の体力に興味を持ち、意欲的に体力向上の意識を高めることができた。また、休み時間に教員も児童と一緒に積極的に運動遊びをしたり夢授業を通してスポーツに楽しみながら取り組める環境を整えたりした。しかし大阪市学力経年調査の結果は、全市共通目標の①は目標を1.2%下回り、②はいずれの学年も向上させることができなかった。③④⑤は、いずれの学年も達成できなかった。⑤の「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目は校内調査では最も肯定的な回答は66%で数値的に高い。学習内容に合わせたカードを活用し、児童が自分のがんばりや課題について確認したり、体力向上の意欲が高まったりしている実態はうかがわれる。

・中期目標においては、話し合う活動の項目は、6.3ポイント増加し、目標を達成することができた。国語及び算数の平均正答率の対全国比に対する目標設定について令和3年度当初の設定に誤りがあり、今年度修正した0.05ポイントと考えても、目標を達成することができなかった。理科及び外国語の学習における意識調査は令和3年度より3ポイント以上増加させるという目標を達成することができなかった。しかし、運動における項目については7.7ポイントも増加したため目標を大きく上回ることができた。

学校の年度目標について

・令和7年度末保護者アンケート「子どもは学校で学習したことを理解している」の肯定的回答は88%で、前年度より1%下回った。

・令和7年度末児童アンケートの肯定的回答の割合は、次の通りである。

「学校の勉強は、わかりやすい」89%で、前年度より2%下回った。

「手洗い、うがい、歯みがきをしっかりと、健康に気をつけている」は91%で、前年度より4%下回った。

単元を決めた習熟度別学習や少人数指導を計画的に行い、基礎基本の定着を図ったがアンケートの結果は成果が上がっていなかった。朝学習を有効に活動したり、個に応じた支援・指導を積極的に進めたりしていく必要がある。

体力の向上については、単元に応じた体育カードを活用することで運動に対する意欲が高まったため、継続して行うとともに、次年度もトップアスリートによる夢授業などで運動することの楽しさを味わわせる機会を多く持つことができるようにしていく。

健やかな体の育成に関しては、元気アップ週間や学校保健委員会の実施を通して手洗いに対する意識は高まったが、今年度もハンカチを持ってきていない児童がみられたため、声掛けや家庭への啓発を継続していく。

・中期目標においては、2項目のうち「学校の勉強は、わかりやすい」の項目が4ポイント増加したため、目標を達成することができた。個に応じたきめ細やかな指導の実践を継続してきたせいかと考えられる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標について

・朝学習や授業時間等で、デジタル教材(navima)を利用した学習や、Kahoot、Canva、SKYMENUなど様々なソフトを活用した学習を各学年積極的に実施している。また、調べ学習やプレゼンやクイズ作りなど、日常的に児童が楽しみながら学習者用端末を活用している。5月から12月までの月別端末利用活用率は、平均45.4%で、8月までの活用率41.8%に比べると3.6ポイント向上し50%以上活用した月は3か月あった。しかし、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にするという目標は達成できなかった。本校では令和8年1月末から2月にかけて学習者用端末の更新を行った。今後は、学習形態の改善や授業改善を通して、児童が主体的に学習できるようなICTの活用を積極的に行っていく。

・教職員の年次有給休暇の計画的な取得については、ほぼ目標値に到達した。今後も年次有給休暇の取りやすい環境を整備していくことが課題である。

学校の年度目標について

・令和7年度末児童アンケート「学習者用端末を使った学習が楽しい」の肯定的回答の割合は、90%で、前年度より4%減少した。

・令和7年度末保護者アンケート「学校は学習者用端末を活用した学習を行っている」の肯定的回答は89%で、前年度より2%増加した。

- ・学習参観時や学校ホームページなどで、学習者用端末を活用した学習を積極的に進めていることを紹介している成果もあり、保護者に対する認知度が上がっている。学級休業の際には、持ち帰ってオンライン授業を行ったり、2月初旬から、持ち帰りを実施し始めたりした。今後は、学習者用端末を活用した学習に関する授業改善や研修会等を行い指導力向上を目指す。
- ・通常時やゆとりの日の電話対応時間の見直しをしたり、業務終了時刻を18時と意識した業務を進めてきたりしたので、時間外勤務の時間が減少し徐々に成果があらわれている。今後も、引き続き業務の精選や教育課程の見直しなどを行い、働き方改革を推進していく。

大阪市立瓜破北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>④ 令和7年度末の児童アンケート調査で、次の各項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合において現状維持をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがあると思いますか」 ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」 ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 ・「学校へ行くのが楽しい」 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ事象について児童の状況把握に努め、全教職員で情報共有を図り、組織的な対応に取り組む。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回のいじめアンケートの実施後、各学級・学年で児童の様子を聞き取り、各々の事象について、解決できるようにする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力行為や不登校になる児童を生み出さないように、個に応じた支援をし、児童のより良い人間関係づくりをめざした児童会活動や委員会活動に取り組む。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が互いに助け合い、楽しみながら自主的に取り組むことができる児童集会や学級活動を年間12回以上行う。 	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を実施し、防災体験学習を行ったり、教職員の不審者対応訓練を行ったりして、自分の命も他者の命も大切に守る防災・減災教育に取り組む。 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間4回の避難訓練を実施する。 ・防災・減災カリキュラムに沿って教育活動を実施する。 ・幼小連携した避難訓練や、小小・小中・地域と連携した防災訓練に年1回参加する。 	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な体験学習や活動、縦割り班活動を行い、互いに助け合い、協力し合うことの大切さを学ばせる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験学習等、各学年に応じた体験学習を年間1回実施する。 ・各学級で、平和学習等、他者を思いやる心や自尊感情を高めるような取り組みを年間1回以上実施する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>全市共通目標</p>	
<p>① 小学校学力経年調査における児童アンケートで「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」という項目に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は77.9%で、目標の87%以上を達成することができなかったが、肯定的回答は93%ではり87%を上回っている。</u></p> <p>(12月の校内児童アンケート結果では<u>84%</u>(肯定的回答96%)であり、9月調査より、肯定的回答は1ポイント向上している。)</p> <p>また、中期目標における結果として、最も肯定的な回答をする児童の割合は令和3年度より4.1ポイント減少したので目標を達成することができなかった。</p> <p>② 不登校児童の在籍比率は、<u>昨年1.28%、今年度は0.68%</u>で昨年度よりも低い。</p> <p>また、中期目標における結果として、不登校児童の在籍比率を令和3年度と比べると0.2ポイント増加したため目標を達成することができなかった。</p> <p>③ 前年度不登校児童の改善の割合は、0%となっている。</p> <p>また、中期目標の結果においては、令和3年度も0%であったため、減少させることができなかった。</p>	
<p>学校年度目標</p>	
<p>令和7年度末の児童アンケートで「そう思う(どちらかといえば、そう思う)」と答える児童の、割合は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがあると思いますか」 <u>(R6末85%→R7末82%) ↓</u> ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」 <u>(R6末98%→R7末95%) ↓</u> ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 <u>(R6末96%→R7末95%) ↓</u> ・「学校に行くのが楽しい」 <u>(R6末89%→R7末84%) ↓</u> <p>また、中期目標においては、上の項目から8ポイント増加、4ポイント増加、1ポイント減少、6ポイント減少という結果となり、児童の割合を令和3年度より3ポイント以上、増加させるという目標は2項目達成することができた。</p>	

指標について

- ① 学期に1度(年3回)いじめアンケートを実施した。実態把握と児童への聞き取りを行い、学年で情報共有を行った。聞き取りした内容をもとに指導・支援した。また、普段からも教職員で情報を共有し、予防と早期発見、早期対応に努めた。情報モラル教育オンライン授業(5年)を行うなど、トラブルの防止も心掛けた
- ② 児童集会を1年生から6年生までの縦割り班を構成し、様々な活動を集会委員会中心に行い、楽しみながら計画的に取り組むことができた。学級活動は、学級ごとに異なるが、全員で遊ぶ取り組みを行った。
- ③ 避難訓練や教職員の不審者対策研修を計画通り実施した。他にも、児童引き渡し訓練や、地域防災訓練(6年)、防災学習(1～5年)防災訓練(2・5年)を行い、防災・減災への意識を高めた。
- ④ 各学年に応じた体験学習や自尊感情を高める学習を年1回以上行った。後期には、例えば、1年生は、地域の方と昔遊びの交流を行った。4年生では、車いす体験を通して、他者を思いやる心を高めることができた。6年生では、陶芸教室、もちつき体験など地域の方やゲストティーチャーとの関わりを通して互いに助け合い、協力し合うことの大切さを学ぶことができた。平和学習では、平和について考え、他者を思いやる心を深めることができた。

次年度への改善点

- ① 引き続きいじめアンケートを定期的に行い、教職員間で共有を行う。また、児童の日ごとの言動や行動にも目を向け、規範意識の徹底、問題行動の予防、いじめの期発見、早期対応ができるように努める。
- ② 今年度、集会の形を変えたので、運営や内容などを引き続き工夫していく。また、朝の登校時刻が遅く、途中参加の児童もいるので、児童集会の時間に間に合うように継続して指導を行う。
- ③ 次年度も計画通り実施していく。地震の避難訓練が年2回必要かは、検討する。
- ④ 計画通り実施する。

大阪市立瓜破北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を34%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。</p> <p>⑤ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>⑥ 令和7年度末保護者アンケートにおける「学校で学習したことを理解している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を88%以上にする。</p> <p>⑦ 令和7年度末児童アンケートにおける「学校の勉強は、わかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>⑧ 令和7年度末児童アンケートにおける「手洗い、うがい、歯みがきをしっかりと、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を、95%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年の実態や内容に応じて、算数科・国語科における基礎・基本の知識や技能を育成し、定着を図る。 サポーターやコーボレーター等を活用し、個に応じた支援の充実を図る。 	B

指標	・単元等を決めて、個に応じた基礎・基本の定着を図る指導を実施する。 ・授業研究や教材・教具を工夫して学力の向上をめざす。全校で、朝学習の時間に「学習タイム」と「読書タイム」を行う。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】	・主体的に学び、自分の考えを表現することのできる学びを推進する。	
指標	・全学年で合計6回の研究授業を実施する。 ・教員が、年間1回以上の公開授業を行う。 ・年間3回以上のメンター研修会を行う。	B
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】	・自分のめあてに向かって、進んで体と心をみがく子どもの育成をめざす体育学習の実践を通して、体力向上の意識を高める。 ・体育的行事を通して、児童が進んで運動に親しむようにする。	B
指標	・意欲が高まるような体育カードを活用する。 ・業間体育を年1回以上実施する。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】	・基本的生活習慣の改善や健康についての意識を高める。	B
指標	・元気アップ週間で、健康チェックを年間3回実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標

① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、32.8%で目標を若干達成していない。(目標 34%)

また、中期目標においては、6.3ポイント増加したので目標を達成することができた。

② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05

	対全国比	R7		
	国語	前年度との比較値	算数	前年度との比較値
3	0.8		0.77	
4	0.82	0 ↓	0.87	0.03 ↓
5	0.81	-0.02 ↓	0.74	-0.13 ↓
6	0.78	-0.06 ↓	0.72	-0.12 ↓

ポイント向上させるについては、いずれの学年も目標を達成することができなかつた。

また、中期目標において、同一母集団における経年的比較はすでに令和7年度は在籍していないため令和3年度とは比較できない。令和4年度のみ比較すると国語は 0.02 ポイント増加し、算数は 0.17 ポイント減少したため、3ポイント以上増加させるという目標は達成できなかった。但し、目標設定に誤りがあり、今年度修正した数値である 0.05 ポイントで考えたとしても達成することができなかつた。

③ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 74.4%で、目標を達成していない。(目標 85%)

また、中期目標において令和3年度より 2.6ポイント減少したため目標を達成することができなかつた。

④ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 62.8%で、目標を達成していない。(目標 84%)

また、中期目標において令和3年度より 2.1ポイント増加したが、目標を達成することが

できなかつた。

- ⑤ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は 63.1%で、目標を達成していない。（目標 70%）

また、中期目標において令和3年度より7.7ポイント増加したため、目標を達成することができた。

学校年度目標

令和7年度末の保護者アンケートで、「そう思う（どちらかといえば、そう思う）」と答えた割合は次の通りである。

- ・「学校で学習したことを理解している」 (R6末 89%→R7末 88%)

また、中期目標において令和3年度と同値であったため、目標を達成することができなかつた。

令和7年度末の児童アンケートで、「そう思う（どちらかといえば、そう思う）」と答える児童の割合は、次のとおりである。

- ・「学校の勉強は、わかりやすい」 (R6末 91%→R7末 89%)
- ・「手洗い、うがい、歯みがきをし、健康に気をつけている」 (R6末 95%→R7末 91%)

また、中期目標において、上の項目は令和3年度より4ポイント増加したため、目標を達成することはできたが、次の項目は3ポイント減少したため目標を達成することはできなかつた。

指標について

- ① サポーターやコーラボレーター等多くの職員を活用したり、習熟度別学習や少人数学習を取り入れたりして、個に応じた学習をすすめることができた。また、子どもの実態に応じて授業時数を柔軟に変えたり、担任と学年担当が役割を交代したりなどした。朝学習では、**100マス計算や視写、読書**などに継続的に取り組み、基礎・基本の定着を図った。

教材・教具の工夫や教室掲示の仕掛けなど子どもたちが興味をもって学習に取り組めるよう学年で協力して行うことができた。

- ② 研究授業、公開授業、メンター研修ともに計画通り進んでいる。指導案検討会にはスクールアドバイザーにも参加していただき、1年間を通して同じ視点で研修を深めることができ、指導力の向上につながった。

- ③ スポーツテストを全学年で実施することで、自身の体力に興味を持ち、意欲的に体力向上の意識を高めることができた。学年によっては学年全体で体育的行事を実施し、子ども達が進んで運動に親しむ姿が見られた。また、児童の実態に合わせて、活動内容を工夫したり、学習内容に合わせたカードを活用したりすることで、児童が自分のがんばりや課題について認識し、体力向上の意欲が高まる様子が見られた。運動会や業間なわとびも計画通り実施した。

- ④ 元気アップを計画通りに実施し、手洗いの意識付けを図るとともに、学校保健委員会を実施したことで、手洗いについての意識が高まった。また、元気アップ週間に限らず、普

段から手洗い、うがい、ハンカチの持参などの声掛けを意識している教員が多い。

次年度への改善点

- ① 朝学習を有効に行うためにも登校時刻について継続指導する。朝学習の内容を学校全体で取り組み、基礎・基本の定着を図れるよう系統立てて行う必要がある。
個に応じた学習を進めるためにも、一人ひとりの実態をより細やかに把握できるように教室に入る職員の数をもっと増やさないといけない。
- ② 公開授業の在り方について考えていく。
- ③ 『運動集会』や『駆け足大会』のような学校全体での行事を追加するのはどうか。
- ④ アンケート内容について見直し

大阪市立瓜破北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を1月末までに70%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>③ 令和7年度末児童アンケートにおける「学習者用端末を使った学習が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>④ 令和7年度末保護者アンケートにおける「学校は学習者用端末を活用した学習を行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用した学習を計画的に行い、児童が「学習者用端末を使った学習が楽しい」と感じることができるようにする。 <p>指標 ・デジタル教材(navima)等を活用し、個別の課題に対応した学習の時間(5時間目が始まる前など)を週1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末の活用について、家庭学習での使い方や学習課題の工夫をする。 <p>指標 ・学習者用端末の持ち帰り学習を昨年度より積極的に実施する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準授業時数を確保しながら、5時間授業日を設定したり、見直した校時表を運用したりして、多忙化の解消につなげる。 ・教職員は勤務時間を意識した働き方を行い、計画的な業務の実施、メリハリのある勤務を行う。 	B

指標 ・勤務終了時刻を意識した業務を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標

- ① 5月から12月までの月別端末利用活用率は、平均 **45.4%** で、8月までの活用率 **41.8%** に比べると3.6ポイント向上した。また、50%以上活用した月は3か月あった。しかし、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にするという目標は達成できなかった。
- ② 1月末までの年次有給休暇10日以上取得した教職員の数は **69.6%** で、目標の70%を四捨五入したら同値となる。

学校年度目標

- ③ 児童アンケートで次の項目に、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と答えた割合は次の通りである。
 - ・「学習者用端末を使った学習が楽しい」 (R6末94%→R7末90%)
- ④ 保護者アンケートで次の項目に、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と答えた割合は次の通りである。
 - ・「学校は学習者用端末を活用した学習を行っている」 (R6末87%→R7末89%)

指標について

- ① 朝の学習時間や学習中の隙間時間を使って、Google Classroomやナビマ、らっこたんなど個別の課題に応じた学習を週1回以上実施している。学習のまとめとしてCanvaを積極的に活用するなど学年や教科に応じて、学習者用端末を使うよさや楽しさを感じるきっかけとしている。
- ③ 学級休業の際には、持ち帰ってオンラインでの体調確認や短時間の授業を行った。2月初旬から、持ち帰りを実施し始め、デジタルドリルnavimaなどを活用している。持ち帰り学習の活用についてメンター研修会も行っている。
- ③ 業務の終了時刻を18時と意識し、業務を進めている。職員室内への就業時間の掲示、業務の精選、教職員互いのサポートなどを行っている。しかし、教材研究を深めることを目指したり、行事前の準備をしたりすることにより、繁忙期は18時を過ぎることがある。
校時表の見直しやゆとりの日の設定、電話対応時間の見直しは、職員の計画的な業務への意識付けにもなっている。

次年度への改善点

- ① 引き続き授業計画を立てて、活用を図る。朝学習では全児童がそろわないことも多く、柔軟な運用が必要。
- ② 引き続き取り組んでいく。一方、持ち帰りのために無理に課題を作り出す現状や、持ち帰ると次の日に忘れてきて学習に支障をきたすなど本校児童の実態などの課題も現れてきている。
- ③ 引き続き業務の終了時刻を意識し、18時以降に終わる回数を減らすように心がける。業務内容や会議の精選も意識する。